岡山大学教育推進機構教育研究紀要第 3 巻（2025）74 － 90

研究論文

近代韓国の読本教科書『初等小学』の底本に関する再考

李　安九（岡山大学教育推進機構）*

Reconsidering the Sources of the Modern Korean Reader Textbook *Chodeung-sohak*

Ankoo LEE
(Institute for Promotion of Education and Campus Life, Okayama University)

要旨

本稿では、近代韓国の読本教科書『初等小学』（1906）の編纂において参照されたと思われる日本の明治期読本教科書について比較・考察を行った。まず、文部省編纂の検定『尋常小学読本』（1887）と第 1 期国定『尋常小学読本』（1903）、さらに金港堂出版の『尋常国語読本』（1900）及び『高等国語読本』（1900）との関連性について、先行研究の議論を再検討した。そのうえで、新たに金港堂の『新体読本 尋常小学用』（1894）と普及舎の『尋常小学新読本』（1893）の 2 種を底本として確認することができた。『初等小学』において最も多く参照された明治期読本教科書は金港堂の『尋常国語読本』（1900）であり、『初等小学』は、金港堂と文部省の比較的新しい尋常小学用読本教科書を優先的に参照したと思われる。

Abstract

This study examines the Japanese Meiji-period reader textbooks that appear to have been consulted in the compilation of the Korean modern reader textbook *Chodeung-sohak*(1906). While reviewing prior research, this paper newly identifies two previously unnoted source textbooks: one published by Kinkōdō in 1894 and another by Fukyūsya in 1893. The findings indicate that the Meiji-period reader most frequently referenced in *Chodeung-sohak* was *Jinjō Kokugo Tokuhon* published by Kinkōdō in 1900. Overall, it can be concluded that *Chodeung-sohak* relied primarily on the comparatively recent elementary-level readers issued by Kinkōdō and the Ministry of Education.

キーワード：『初等小学』、近代韓国の読本教科書、明治期読本教科書

*　本研究は JSPS 科研費 JP21K00651 の助成を受けたものである。

1. はじめに

『初等小学』（全 8 巻、1906 年）は、1905 年の乙巳保護条約の後、愛国啓蒙団体の大韓国民教育会によって刊行された、近代韓国の読本教科書である。[1]『初等小学』は、学部編纂教科書の『普通学校学徒用国語読本』（1907）と対比されることが多く、カン・ジンホ（2015）やチャン・ヨンミ（2016）、野村（2022）[2] などの先行研究では、統監府の教育強制に抵抗する私立学校用教科書としての『初等小学』の民族愛国主義的特性に注目した。後に、統監府の私立学校抑圧のための教科書統制政策によって、『初等小学』が「学部不認可教科書」として使用が禁止されたことは、そのような評価を裏付ける。

しかし、李安九（2020）では、韓国最初の近代教科書とされる『国民小学読本』（1895）や『新訂尋常小学』（1896）、そして『普通学校学徒用国語読本』のような学部編纂読本教科書のみならず、民族的性格を持つと評価される『初等小学』も、日本の明治期読本教科書を参照していることを明らかにした。李安九（2020）では、題材のみならず、構成や表現などを検討し、文部省編纂の検定『尋常小学読本』（1887）と第 1 期国定教科書『尋常小学読本』（1903）、そして金港堂出版の『尋常国語読本』（1900）及び『高等国語読本』（1900）を『初等小学』の底本として特定することができた。

本稿は、李安九（2020）の議論を修正、補完するとともに、新たに『初等小学』の底本として発見されたものについて考察を行う。『初等小学』と明治期教科書を比較するにあたっては、題材のみならず、内容や構成、表現、そして挿絵などを検討して、その類似性を判断することにする。

2. 文部省編纂読本教科書との関連性

文部省編纂読本教科書のうち、『初等小学』が参照したと思われるものは、検定『尋常小学読本』（1887）と第 1 期国定教科書『尋常小学読本』（1903）の 2 種である。2.1 では検定『尋常小学読本』、そして 2.2 では第 1 期国定『尋常小学読本』について検討する。

2.1　検定『尋常小学読本』

『初等小学』において、文部省編纂の検定『尋常小学読本』を底本としていると思われるものを次の表 1 に示す。（例えば、「1-1」とは、巻 1 の第 1 課を指し、課の数字がついてないものは、提示された順番またはページ数（項）を表す。なお、挿絵がある場合は、下線で示す。以下同じ。）

表 1. 検定『尋常小学読本』を参照したと思われるもの [3]

『初等小学』		検定『尋常小学読本』	
3-17	口は一つ	1-19	（題目なし）
5-28	電撃	5-01	学問の利益
6-07	腐柿	5-06	腐りたる柿
6-28	狡猾な驢	3-16	ほねをしみせし馬
7-10	狐と蟹	5-04	狐と蟹
7-13	簷水の穿石	6-04	あまだれ石を穿つ
7-15	蘭姫の話	4-13	考へ物
8-06	孝鼠	4-18	子鼠とおや鼠

表 1 のうち、3-17「口は一つ」や 5-28「電撃」、7-15「蘭姫の話」には挿絵が無く、7-13「簷水の穿石」を除く 4 つの挿絵は、検定『尋常小学読本』の挿絵とそれほど類似していない。5-28「電撃」は、野村（2022）で第 1 期国定『尋常小学読本』の 5-16「雷のおちた話」を参照したものと言及されているが、検定『尋常小学読本』の 5-01「学問の利益」がより底本に近いと思われる。[4] 次の（1）に『初等小学』5-28「電撃」と検定『尋常小学読本』5-01「学問の利益」を示す。（『初等小学』の教材の題目や本文の日本語訳は、筆者によるものである。改行は適宜行い、明治期教科書と『初等小学』の類似する部分は太字で示す。以下同じ。）

（1）a. 『初等小学』の 5-28「電撃」

今日、幼年の学校において勉強することは、他日、自分と他人の為に、利益あることを行うためです。ある村に春永と金成の二人の子供がいて、春永は**なまけもので**、遊ぶのが好きなため、**いつも「学問は無用である」と言い**、学校で先生の教えを気にしませんが、金成はとても勤勉に勉強していました。

ある日、金成と春永が共に**郊外に出かけましたが、忽ち黒雲が起き、驟雨が降り、雷の音が大きく鳴りました。**春永が**大いに驚いて、ある高い木の下に行き、身を避けました。**金成が「春永よ、汝は**昨日の先生のお話しで、雷が鳴る時は、高い木の下に行くべきではないとおっしゃった**のを忘れたか。」と言い、急いで春永の**手を引いて、其の木を離れました。数十歩も行かないうちに、稲光がぴかぴかし、雷火が流動しました。二人は大に恐れて、地に伏せていましたが、しばらくして顧みると、其の木は既に中間が割れていました。**春永はやっと気を取りなおし、**金成の手を握って**、「我が勉強に関心を持たず、先生の話を聞かなかったせいで、今日**死ぬところだった。**」と後悔しました。そして金成の**恩恵を謝し、それ以降は**心を尽くして勉強し、**金成のような勤勉な学徒となりました。**

b. 検定『尋常小学読本』の 5-01「学問の利益」

今日、吾等の学校に於て学ぶことは、他日自分の為め、又他人の為に、甚だ有益なることなれば、善く意を用ひて、教師の教を聞くべし。

亥太郎と云へる小児あり、**常に「学校にて学ぶことは、何の用に立つべきぞ」と云ひて、なまけ居たり。ある日、**金作と野辺に行きしに、**にはかに黒雲起りて、大雨降り注ぎ、雷はげしく鳴り渡れり。**

亥太郎は**大におどろきて野中に一本立ちたる高き木の下ににげこみしかば**、金作は、**「昨日、先生が雷の鳴る時には、決して高き木の下に行くなと教へられしにあらずや」と話ししに**、亥太郎は、「其様なる事を聞きたる覚なし」と云ひて、木の下に止まれり。

金作は、「それは、教場にて気を付けぬ故、聞き落したるならん」と云ひ、強ひて亥太郎の**手を取りて、木の下を去らしめしが、未だ遠くも行かざるに、いなびかり眼をくらまし**、耳も破るるばかりに鳴りとどろけり。

二人は、思はず**たふれ、しばらくありて、後を見しに、既にさきの木は、雷の為めに折け居たり**。亥太郎は**大に怖れ、**金作の**手を握りしめて**、「ああ、危かりし、若しも君が居らずば、**我は打ち殺されしならん**」と云ひて、**深く謝したり**。

亥太郎は、これより学問の益あることを知りて、**勉強なる小児となりしとぞ**。

2.2　第 1 期国定教科書『尋常小学読本』

『初等小学』において、文部省編纂の第 1 期国定教科書『尋常小学読本』を底本とすると思われるものは、次の表 2 の通りである。

表 2. 第 1 期国定『尋常小学読本』を参照したと思われるもの (5)

『初等小学』		第 1 期国定『尋常小学読本』	
3-02	驕慢な雄鶏	2-37 項	(題目なし)
3-19	蝉	3-15	せみ
3-28	雁	4-08	がん
4-07	手紙	4-16, 17	てがみ
4-28	織物	6-02	織物
5-3	乞人	7-03	なまけもの
5-5	酒と煙草	7-11	煙草と酒
6-16	停車場	7-14	停車場
6-25	工業	8-05	工業
6-27	貿易	7-15	貿易

表 2 のうち、5-3「乞人」や 6-25「工業」は、第 1 期国定『尋常小学読本』の挿絵が採用されなかったが、挿絵のある教材は、概ね第 1 期国定『尋常小学読本』の挿絵とほぼ同じ挿絵が使われた。次の（2）では、3-28「雁」の例を挿絵とともに示す。3-28「雁」の挿絵は、第 1 期国定『尋常小学読本』で提示された 2 つの挿絵をまとめた形となっている。

（2）a. 『初等小学』の 3-28「雁」

ある夜、ジョンギルはその父親と共に庭に立っていました。その時は秋で、月はより明るく、風は涼しいです。その時、**空から「きゃあきゃあ」と鳴き声が聞こえました。ジョンギルがすぐ空を見ると、鳥が沢山並んで飛んできます。**

（ジョンギル）**お父さん、あの鳥は何の鳥ですか。とても順序良く飛んできます。**

（お父さん）**あの鳥は、雁と言う。雁はいつもあのように順序良く飛んでいくのだ。**

（ジョンギル）**雁は、どんな鳥ですか。**

（お父さん）雁は水辺にいる鳥で、**その羽はとても力があるのでよく飛ぶし**、またその足指は一緒に繋がっていて、水中で**よく泳ぐのだ**。

（ジョンギル）雁は今どこから来ますか。

（お父さん）ジョンギルよ、**今みたいに天気が涼しければ、**北から南へ来て、**天気が暖かく、燕が来る時は**、雁が南から北へ行くのだ。

b. 第 1 期国定『尋常小学読本』の 4-08「がん」

ある月夜のことでございました。**こたろーが、おとうさんと**よそからかへってきますと、**そらのほーで、がーがーと、なくこゑがきこえました。**

こたろーがすぐ空をみますと、とりがたくさんならんでとんでいくのがみえました。

こたろー**「おとうさん。あのとりはなんといふとりですか。たいそーよくならんでとんでいきますね。」**

おとうさん**「あれはがんといふとりです。がんは、いつもあのよーにぎょーぎよくならんで、とんでいきます。」**

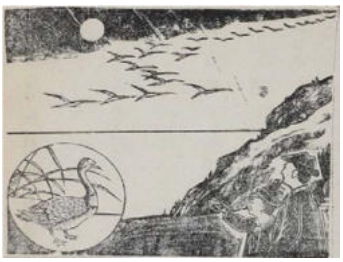
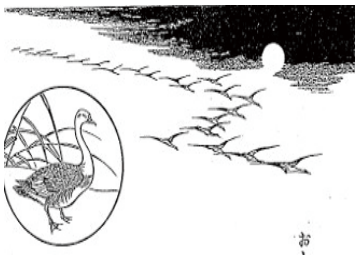
こたろー**「がんといふとりは、どんなとりですか。」**

おとうさん「がんはあひるににてゐるとりです。しかし、あひるは、およぐだけで、とぶことはできませんが、**がんは、羽がつよいから、あのよーによくとびます**。そして、またあひるのよーに、あしにみづかきといふものがありますから、池などにおりると、**よくおよぎます**。」

おとうさんは、かういって、また、つぎのよーにいひました。

「このとりは、あたたかなところと、たいそーさむいところとがきらひです。それですから、**このごろのよーに、すずしくなると**、よそのたいそーさむいところからきます。そして、**あたたかくなって、つばめがくるよーになると**、また、よそのすずしいところへ、いってしまひます。」

c.　左：3-28「雁」/中・右：第 1 期国定『尋常小学読本』の 4-08「がん」

3. 金港堂出版読本教科書との関連性

『初等小学』は、金港堂から出版された『新体読本 尋常小学用』（1894）や『尋常国語読本』（1900）、『高等国語読本』（1900）の 3 種の読本教科書を参照していると思われる。3.1 では『新体読本 尋常小学用』、3.2 では『尋常国語読本』、3.3 では『高等国語読本』との関連性について検討を行う。

3.1　金港堂『新体読本 尋常小学用』

『新体読本 尋常小学用』と『初等小学』との関連性については、未だ言及されたことがなく、今回新たに発見したものである。『新体読本 尋常小学用』を底本としていると思われる教材を次の表 3 にまとめて示す。

表 3. 金港堂『新体読本 尋常小学用』を参照したと思われるもの

『初等小学』		金港堂『新体読本 尋常小学用』	
2-19	運動	2-31	はたとり
4-08	朋友	3-15, 16	犬、友
4-22	古代の軍人	3-20	昔ノ軍人
4-23	今世の軍人	3-21	今ノ軍人
4-26	雞	4-01	雞
5-07	食物	4-09	食物
5-09	魚	4-06	うみのうを
5-13	衣食住	4-07	衣食住
6-12	水の去処	5-12	水ノ行クヘ
6-17	金屬	5-16, 17	金屬、鐵
7-11	凶年の預備	7-23	凶年のそなへ
7-16	人の職業	7-19	人ノ職業
7-22	鯨	8-16	鯨
8-01	塩及砂糖	6-14	塩 砂糖

表 3 のうち、4-08「朋友」や 6-12「水ノ去処」、6-17「金屬」は、3.2 で検討する金港堂『尋常国語読本』との関連性が野村（2022）で言及されたが、内容からすると、『新体読本 尋常小学用』を参照したと思われる。次の（3）に『初等小学』4-08「朋友」の例を示す。底本と思われる『新体読本 尋常小学用』3-15「犬」及び 3-16「朋友」のほか、金港堂『尋常国語読本』3-18「いぬ」の挿絵も併せて提示する。(6)

（3） a.『初等小学』の 4-08「朋友」

朋友は、善き者もいれば、悪い者もいます。

善き友と交わると、日々善き言葉を聞き、善きことを見るため、大きく利益があります。悪い友と交わると、日々悪い言葉を聞き、悪いことを見るため、大きく損害があります。それ故、朋友に益ある友もいて、損ある友もいるといいます。

ある処に、白犬と黒犬がいて、白犬はおとなしく、黒犬は気性が荒かったです。

ある日、白犬が黒犬と共に他の処へ行って黄色い犬に出会いました。

白犬はおとなしい故、けんかをしませんでしたが、黒犬は大きく吠えて、黄色い犬を噛みました。黄色い犬の飼い主がこれを見て、大きい棒で黒犬を叩きましたが、白犬も打たれました。

これを見れば、犬も悪い友と交わると、思わぬ害を被るのです。

b.『新体読本 尋常小学用』の 3-15「犬」及び 3-16「友」

（3-15）あるところに、しろとくろとの二ひきのいぬがゐました。

しろいぬは、おとなしくして、くろいぬは、あばれものでありました。

あるひ、しろいぬとくろいぬとつれだちて、しらぬところにゆきますと、やがて一ぴきのあかいぬにであひました。

しろいぬは、もとよりおとなしいいぬでありますゆゑ、けんくわもしませんでしたが、くろいぬは、いきなりほえついて、あかいぬをかみふせました。

あかいぬのかひぬしは、これをみて、おほいにいかり、ぼうをとって、くろいぬをたたきましたが、はては、しろいぬまでもうたれました。

ひとも、あしきともだちにまじはれば、あやうなるわざはひをうけますゆゑ、よくきをつけねば、なりませぬ。

（3-16）友には、よきもあり、あしきもあり。

善き友にまじはれば、日々に善きことをきき、善きことを見習ひて益あり。

悪しき友に交れば、日々にあしきことをきき、あしきことを見習ひて損あり。

善き友には、むつましく交るべし。悪しき友には、したしむべからず。

もし、あやまちて、悪しき友に交れば、思はざるわざはひをまねくことあり。

されば、かしこき人は、かろがろしく交りをむすぶことなし。

c. 左：4-08「朋友」/中：『新体読本』3-15「犬」/右：『尋常国語読本』3-18「いぬ」

上で示したように、『初等小学』の 4-08「朋友」の前半は、金港堂の『新体読本 尋常小学用』3-16「友」の内容で、後半は 3-15「犬」との関連性が確認できるが、挿絵については、『新体読本 尋常小学用』よりも、金港堂『尋常国語読本』の挿絵と類似している。金港堂『尋常国語読本』も 3-18「いぬ」の後に 3-19「友をえらべ」の教材が続くが、3-19「友をえらべ」は歌の形式となっていて、『初等小学』の 4-08「朋友」とは明らかに異なる。要するに、内容の面では『新体読本 尋常小学用』を、そして挿絵では、金港堂『尋常国語読本』を参照したと考えられる。

挿絵についてみると、表 3 の 4-26「雞」や 5-07「食物」、6-17「金屬」では底本の挿絵が採用されなかった。4-22「古代の軍人」は、『新体読本 尋常小学用』3-20「昔ノ軍人」の挿絵と類似しているが、4-23「今世の軍人」と 5-09「魚」、7-22「鯨」、そして 8-01「塩及砂糖」は、『新体読本 尋常小学用』の挿絵とは異なる。7-22「鯨」の挿絵は、3.3 で検討する金港堂『高等国語読本』1-19「鯨」の挿絵と同じで、8-01「塩及砂糖」の挿絵は、3.2 で検討する金港堂『尋常国語読本』5-8「砂糖」の挿絵、そして 4 章で検討する普及舎『尋常小学新読本』（1893）7-10「塩」の挿絵を参照したと思われる。(7)

3.2　金港堂出版『尋常国語読本』

『初等小学』と金港堂『尋常国語読本』との関連性については、李安九（2020）や野村（2022）で検討されている。次の表 4 には、李安九（2020）を基に一部修正・補足を加えて、金港堂『尋常国語読本』を底本とすると思われる教材をまとめて示す。

表 4. 金港堂『尋常国語読本』を参照したと思われるもの [8]

『初等小学』		金港堂『尋常国語読本』	
2-01	朝（一）	2-01	アサ
2-02	朝（二）	2-02	（アサ）つづき
2-03	雁	2-07	たろーのはなし
2-05	猿	2-05	オハナノハナシ
2-08	ジョンヒとナンヒ	2-09	おはなのあそび
2-11	兎と亀	2-10	タローノハナシ
3-06	つみくさ	2-22	つみくさ
3-07	ままごと	2-23	（つみくさ）ツヅキ
3-14	父親の賞給	2-24, 25	よいこども、ツヅキ
4-15	雪合戦	4-14, 15	雪、雪なげ
5-19	人の一生	6-18	人の一生
5-22	材木	6-07	材木
5-25	蝙蝠	5-04	カウモリ
5-27	蟻と蟋蟀	4-04	アリトキリギリス
6-04	軍艦	5-17	軍艦
6-09	汽船と汽車	5-13	きせん・きしゃ
6-15	商業	5-10	商業
6-23	養蠶	7-05	養蠶
7-02	草木の生長及蕃殖	7-18	草木ノ成長及ビ蕃殖
7-04	空気	6-04	風
7-07	電氣	7-20	電氣
7-09	肥料	7-19	肥料
7-18	石炭と石油	8-14	石炭・石油
7-25	児童の願	6-19	子供ののぞみ
8-02	衛生	6-14	養生
8-03	人體	8-15	人體
8-09	燐火	5-23	火ノ玉
8-17	外國人との交際	8-12	外国人に対する心得
8-18	世界の一周	8-08	世界一周
8-19	郵便と電信	7-21	郵便・電信
8-25	公共の利益	7-24	公共の利益

表 4 のうち、5-19「人の一生」や、6-09「汽船と汽車」、7-18「石炭と石油」、8-17「外國人との交際」、8-19「郵便と電信」では、底本と思われる金港堂『尋常国語読本』の挿絵が採用されず、3-06「つみくさ」や 3-14「父親の賞給」、5-27「蟻と蟋蟀」、7-02「草木の生長及蕃殖」の挿絵は、金港堂『尋常国語読本』の挿絵とあまり類似していない。8-03「人體」の場合、二つの挿絵のうち一つは金港堂『尋常国語読本』と類似しているが、もう一つは第 1 期国定『尋常小学読本』7-10「人ノカラダ」の挿絵が採用されている。それ以外の教材は、金港堂『尋常国語読本』の挿絵を参照したと思われる挿絵が使われている。

次の（4）には、『初等小学』2-05「猿」と金港堂『尋常国語読本』2-05「オハナノハナシ」を各々の挿絵とともに示す。

（4）a. 『初等小学』の 2-05「猿」

猿は知恵ある獣です。猿は立つと人のようで、這うと犬のようです。

ここに一匹の親猿と二匹の子猿がいます。その**親猿が病気で**横になっていると、**子猿**たちが山へ行って、**栗を拾い、その親猿に食べさせます**。

猿は獣ですが、このように親孝行の心があります。

人がその父母に親孝行の心がなければ、この猿にさえ劣ります。

b. 金港堂『尋常国語読本』の 2-05「オハナノハナシ」

オヤザルガ、ビョーキデ、スミカニ、トヂコモッテヰマシタ。

コザルガ、クリヲヒロッテキテ、オヤザルニタベサセマシタ。

c. 左：2-05「猿」／ 右：金港堂『尋常国語読本』の 2-05「オハナノハナシ」

3.3　金港堂出版『高等国語読本』

金港堂の『高等国語読本』は、3.2 で検討した『尋常国語読本』に続く上級の教科書と言える。『初等小学』と金港堂『高等国語読本』の関連性が確認できる教材は、以下の通りである。

表 5. 金港堂『高等国語読本』を参照したと思われるもの (9)

『初等小学』		金港堂『高等国語読本』	
8-11	政府	2-24	政府
8-15	烏の智	1-17	烏ノ智
8-20	家畜	1-15	家畜
8-24	貨幣	3-10	貨幣紙幣

『初等小学』は全 8 巻の構成となっているが、表 5 で示したように、金港堂の『高等国語読本』を参照したと思われる教材は全て最後の巻 8 に集中している。表 5 のうち、挿絵が付いている 8-15「烏の智」と 8-20「家畜」は、金港堂『高等国語読本』の挿絵を参照していると思われる。次の（5）では、8-15「烏の智」と金港堂『高等国語読本』1-17「烏ノ智」の例を挿絵とともに示す。

（5）a.『初等小学』8-15「烏の智」

ある日、私が**海辺に行ったら**、その時は**引き潮で、砂の上に蛤が多くいました。数百の烏が集まり、蛤を食べようと口で蛤を割ろうとするが、甚だしく硬く、割れない**ため、烏は途方に暮れていました。ある烏が**何か方策を考えるようで**、その烏が**蛤を口にくわえ、**空中に高く飛びだして、急に蛤を**石の上に落下させると、蛤が割れ、それによって、其の肉を食べられました。**

大抵落下する物の勢いは、その高さに従って増加する故に、床の上に茶碗を落とす場合、一尺の高さでは割れないけれど、四五尺の高さに至ると、**たちまち割れます。烏にこの理がわかるのは、奇異なことではありませんか。**

世の人は、あることを始めても、少し困ったらすぐやめますが、どうかこの烏の例を見ていただきたいです。

b. 金港堂『高等国語読本』の 1-17「烏ノ智」

或ル人、**海岸ニ散歩シケルニ、数百ノ烏集リテ潮ノ引キタル跡ニ残レル貝ヲ食ハント噪ギ居タリ。**因テ心ヲツケテ之ヲ見シニ、初メハ**嘴ノ力ヲ極メテ、貝ヲ突キケレドモ、貝堅クシテ、破レサリシカバ、**此ニ始メテ他ノ**工夫ヲナシタリ**。

ソハ如何ニト云フニ、多クノ烏、各々**貝ヲ口ニ啣ミテ、**三四十丈ノ高サニマデ上リ、ヤガテ**之ヲ石ノ上ニ落シテ破リ、因テ其ノ肉ヲ食ヒタリ**。

総テ落ツル物ノ勢ハ、高サニ随ヒテ増スモノナリ。故ニ床ノ上ヨリ茶碗ヲ落スニ、一尺ノ高サナレバ、未ダ砕クルコトアラザルモ、一間ノ高サナル時ハ、**忽チ砕クルガ如シ。烏ガ此ノ理ヲ知レルコソ、実ニ不思議ノ至ナレ。**

c. 左：8-15「烏の智」/ 右：金港堂『高等国語読本』の 1-17「烏ノ智」

4. 普及舎出版読本教科書との関連性

普及舎から出版された読本教科書のうち、『尋常小学新読本』(1893) は『初等小学』の底本の一つと思われる。『初等小学』と普及舎『尋常小学新読本』との関連性については、先行研究で言及されたことがなく、新たに発見したものである。普及舎『尋常小学新読本』を参照したと思われる教材を次の表 6 にまとめて示す。

表 6. 普及舎『尋常小学新読本』を参照したと思われるもの

『初等小学』		普及舎『尋常小学新読本』	
2-10	尺	3-13	(題目なし)
3-22	池に船	3-02	(題目なし)
3-26	穀物	3-08	(題目なし)
4-19	米	5-08, 09	米 (一)・(二)
8-13	四民	8-21	四民同等(前の部分)
8-16	実業者の徳義	8-21, 22	四民同等 (後)、実業者の徳義

表 6 のうち、2-10「尺」と 3-26「穀物」、4-19「米」の挿絵は、普及舎『尋常小学新読本』の挿絵とあまり類似していないが、3-22「池に船」は、次の (6) で示すように、『尋常小学新読本』の挿絵を参照したと思われる。また、表 6 には挙げていないが、2-13「四方」と 3-23「蚕」の挿絵は、各々普及舎『尋常小学新読本』3-01「東西南北」、4-24「蚕」の挿絵と類似している。但し、内容的には各々学部編纂『新訂尋常小学』の 1-05「東西南北である」、2-05「蚕である」により近いと判断される。(10) 李安九 (2020) によれば、『新訂尋常小学』の 1-05「東西南北である」と 2-05「蚕である」は、どちらも日本の明治期読本教科書を参照したと思われる。(11)『初等小学』では、他にも明治期教科書を底本とする『新訂尋常小学』の教材と類似するものが確認される。(12)

(6) a. 『初等小学』3-22「池に船」

ジョンギルが友達リョンボクと共に、木片で**小さい船を作り、船の上に太極の国旗**

を高くつけました。

この二人の子供は船を池に浮かべ、面白く遊びました。太極の国旗は、ひらひらと風に吹かれ、船はぷかぷかと浮かんでいます。ジョンギルの父親はこれを見て、「よく作った。まさに海上にある軍艦のようだ。」と褒めました。

b. 普及舎『尋常小学新読本』（1893）の 3-02（題目なし）

太郎と次郎は、小さいふねをつくり、それに日の丸のはたをたてて、いけへうかべました。

ふたりは、その船を、あちらこちらへながして、おもしろさうに、あそんでゐました。父は、それをみて、たいさうよくこしらへた、日の丸のはたも、まことにりつぱである、とほめました。

c. 左：3-22「池に船」/ 右： 普及舎『尋常小学新読本』の 3-02（題目なし）

5. おわりに

本稿では、『初等小学』の編纂において参照されたと思われる明治期読本教科書 6 種について検討を行った。文部省や金港堂、普及舎の発行元ごとに分けて、第 2～4 章で考察した結果として各々の読本教科書を参照したと思われる『初等小学』の教材の数を巻ごとにまとめると次の表 7 の通りである。各巻の教材の総数は括弧の中に示す。

表 7. 明治期読本教科書を参照したと思われる『初等小学』の教材の数

発行元	書名	巻 2 (21)	巻 3 (30)	巻 4 (29)	巻 5 (29)	巻 6 (28)	巻 7 (29)	巻 8 (25)	合計
文部省	検定『尋常小学読本』		1		1	2	3	1	8
	国定『尋常小学読本』		3	2	2	3			10
金港堂	『新体読本 尋常小学用』	1		4	3	2	3	1	14
	『尋常国語読本』	6	3	1	4	4	6	7	31
	『高等国語読本』							4	4
普及舎	『尋常小学新読本』	1	2	1				2	6

表 7 を見ると、『初等小学』において最も多く参照された明治期読本教科書は、金港堂の『尋常国語読本』（1900）で、金港堂の『新体読本 尋常小学用』（1894）と文部省の国定『尋常小学読本』（1903）がそれに次ぐ。(13)『初等小学』は、金港堂と文部省の比較的新しい尋常小学用読本教科書を優先的に参照したと判断される。上級の読本教科書としては、金港堂の『高等国語読本』のみ、『初等小学』の巻 8 との関連性が確認できるが、より難しい内容を扱う巻 8 では、尋常小学用教科書のみならず、上級教科書も参考にしたと考えられる。

表 7 の明治期読本教科書のうち、金港堂の『新体読本 尋常小学用』と普及舎の『尋常小学新読本』は、李安九（2020）などの先行研究において言及されたことがなく、新たに底本として確認したものである。今回の調査では、各教材の題材のみならず、内容や表現、挿絵の類似性を比較し、その底本を判断したが、題材に限定するなら、『初等小学』と共通の題材が使われる事例は、より多く確認される。(14) また、『初等小学』では、底本と思われる教科書の挿絵ではなく、別の教科書の挿絵が採用されるなど、複数のテキストを参照したかと思われる場合もあり、学部編纂『新訂尋常小学』と共通の教材が使われることも少なくない。さらに、今回検討した 6 種の読本教科書以外の明治期教科書が『初等小学』の底本として使われた可能性も排除できない。(15) 近代韓国の教科書作りにおいて、日本の明治期教科書がどのように活用されたかについては、今後さらなる検討を続けたい。

注

(1) 巻 1〜8 の 8 巻 4 冊構成の『初等小学』は、『韓国開化期教科書叢書（4）』（1977、亜世亜文化社）や、『韓国開化期国語教科書（7）』（2012、図書出版キョンジン）の影印本が出版されているが、どちらも巻 3〜4 の部分を欠く。巻 3〜4 は、延世大学図書館国学資料室に所蔵されており、チャムビッ（참빛）復刊叢書の復刻版（第 2 集、No153『初等小学二』、2018、チャムビッアーカイブ）にも含まれている。なお、現在は韓国国立中央図書館のホームページから巻 3〜4 の PDF ファイルを入手できる。

(2) 野村（2022）も『初等小学』と日本の明治期教科書との比較を行ったが、李安九（2020）が参考文献として挙げられていない。

(3) 表 1 のうち、3-17「口は一つ」や 6-28「狡猾な驢」、7-15「蘭姫の話」、8-06「孝鼠」は、各々学部編纂『新訂尋常小学』の 1-13「口は一つである」、3-23「狡猾な馬である」、2-32「考え事である」、3-09「孝鼠の話である」と共通する内容となっている。李安九（2020）では、これらの教材と『新訂尋常小学』との関連性、そして『新訂尋常小学』の教材が検定『尋常小学読本』を底本としていることについて言及しているが、検定『尋常小学読本』を底本とする『初等小学』の教材としてはこれらを示していない。野村（2022）の場合、『新訂尋常小学』と共通する 4 つの教材は、日本の教科書からの引用・参照教材の例として挙げられていない。また、7-10「狐と蟹」は、李安九（2020）では提示されず、追加したものである。

(4) 野村（2022）では、検定『尋常小学読本』5-16 と示しているが、国定第 1 期『尋常小学読本』の間違いである。第 1 期国定『尋常小学読本』の 5-16「雷のおちた話」を次に示す。

ある村に友吉といふ子と、和助といふ子とがありました。友吉は、学校で先生のいふことをいつもよく気をつけてききましたが、和助はいたづらをしたり、わきみをしたりして、よくはききませんでした。

ある日、このふたりが学校からいっしょにかへってきますと、**にはかに雲が出て雷がひどくなりだしました。雨もひどくふってきました**。和助は**おどろいて、**みちばたの**高い木の下ににげこみました**。友吉は、

「このあひだ、**先生が「雷のなるときには、**どんなことがあっても、**高い木の下などにいってはならん。」**とおっしゃったではないか。早く来たまへ。」

といって、そこをのかせようとしました。

和助は

「ぼくはそんなことをきいたことはない。」

といって、なかなかききませんでした。友吉は

「それは、きみがききおとしたのだらう。早く来たまへ。」

といって、**手をひっぱって、**むりに**そこからつれてきました**。

和助が木の下を出て、**まだあまりとほくも行かん時のことでありました。目もくらむよーないなびかりがするといっしょに、**耳も裂けるよーな、おそろしい音がしました。ふたりは、おもはず耳に手をあてて、**そこにたふれました**。

しばらくたって、ふたりがかほをあげて、**そのあたりを見まはしましたら、さきの高い木は、雷がおちて、まっぷたつにさけてをりました**。和助は、友吉のかたに手をかけて、

「あー。あぶなかった。もしきみがをらなんだら、ぼくは雷にうたれて**死んでしまふのだった**。」

といひました。

和助は、これから**友吉のよーに**、よく気をつけて先生のいふことをききました。そしてわきみをしたり、いたづらをしたりするよーなことがないよーになりました。

(5) 表 2 のうち、3-02「驕慢な雄鶏」と 3-19「蝉」、5-5「酒と煙草」は、李安九（2020）では提示されず、追加したものである。また 4-07「手紙」と 4-28「織物」は、野村（2022）で言及されていない。

(6) 金港堂『尋常国語読本』の 3-18「いぬ」の内容は以下の通りである。

おとなしいしろいぬが、ある**くろいぬと、**こころやすくなって、あちこちへあそびに**ゆきました。**

さうしたところが、**くろは、よくないいぬ**で、をりをりわるいことをいたします。

あるとき、かはゆらしいあか**いぬにであひましたが、**いきなり**これをかみふせました。**

それゆゑ、**くろは、**あか**いぬのかひぬしに、ひどくうたれました。**

さうしておとなしい、**しろいぬまでも**、なかまとおもはれて、**つよくうたれ、とんだめいわくをいたしました。**

(7) 挿絵の類似性のため、7-22「鯨」に関しては、李安九（2020）と野村（2022）で金港堂『高等国語読本』1-19「鯨」との関連性が示され、8-01「塩及砂糖」については、李安九（2020）で金港堂『尋常国語読本』5-8「砂糖」との類似性が言及されたが、内容を詳細に比較すると、どちらも『新体読本 尋常小学用』を参照していると思われる。

(8) 表 4 のうち、2-05「猿」や 2-11「兎と亀」、3-06「つみくさ」、3-07「ままごと」、3-14「父親の賞給」、4-15「雪合戦」、6-09「汽船と汽車」、7-04「空気」、7-25「児童の願」は、李安九（2020）では言及されず、追加したものである。また 3-06「つみくさ」と 4-15「雪合戦」、6-04「軍艦」は、野村（2022）で示されていない。

(9) 表 5 のうち、8-15「烏の智」は、李安九（2020）では言及されなかったものである。

(10) このうち、『初等小学』2-13「四方」と『新訂尋常小学』1-05「東西南北である」、普及舎『尋常小学新読本』3-01「東西南北」の例を次に示す。

a.『初等小学』の 2-13「四方」

朝に早く起きて日の出を見ると、四方が既に明るくなっています。

この子は昇る太陽に向かって立っていますが、この子の前は東で、後ろは西、また右は南で、左は北です。

b. 学部編纂『新訂尋常小学』の 1-05「東西南北である」

朝に早く起きて日の出る景色を見ることより、もっと爽快なことはないでしょう。

今、**この子は昇る太陽に向かって立っていますが、その子の前は東**といい、**後ろは西**といいます。**また**この子の**右を南**といい、**左を北**といいます。

c. 普及舎『尋常小学新読本』3-01「東西南北」

アサ、ハヤクオキテ、日ノノボルケシキヲミルホド、ココロモチヨキコトハアリマセヌ。

アサ日ノカタニムカヒテタテバ、ミギハ南ニテ、ヒダリハ北デアリマス。

マタ、マヘハ東ニテ、ウシロハ西デアリマス。

d. 左：2-13「四方」/ 中：『新訂尋常小学』の 1-05、右：『尋常小学新読本』3-01

(11) 李安九（2020）によれば、『新訂尋常小学』1-05「東西南北である」の内容は、普及舎から出版された『尋常小学読書教本』（1894）の 3-01「あさ日」、3-02「四方」と類似しているが、挿絵は文部省の検定『尋常小学読本』2-25「日の出」の挿絵が使われている。また、『新訂尋常小学』2-05「蚕である」は、李安九（2020）で文部省編纂『小学読本』（1889）3-26「蚕」との関連性が言及されている。

(12) 『初等小学』と共通して検定『尋常小学読本』を底本とする『新訂尋常小学』の教材は注 3 で示したが、その他の明治期読本教科書を底本とする場合については、李安九（2020）を参照されたい。

(13) 『初等小学』と金港堂『尋常国語読本』との関連性については、簡単な単語や文章を提示する『初等小学』巻 1 の挿絵や構成の面においても、金港堂『尋常国語読本』の巻 1 を参照していることが、李安九（2020）で指摘されている。

(14) 例えば、『初等小学』6-19「蟻と鳩」の場合、野村（2022）では検定『尋常小学読本』7-13「蟻と鳩との話」を参照したと示されているが、題材は共通するものの、構成や表現、挿絵などからすると、底本として認めるには不十分といえる。

(15) 野村（2022）では、第 1 期国定教科書の『高等小学読本』（1903）や『尋常小学修身』（1903）を参照したと思われる教材を各々1 つずつ（5-17「約束」、6-19「人を悦ばせる」）提示しているが、題材や話の流れは類似するものの、表現や人物の設定などは異なっている。また他には類似する教材が未だ見つからないことを考慮すると、底本として認めるには十分ではないと思われる。

引用文献

李安九（이안구）（2020），『開化期読本類教科書の国語学的研究』（原題：韓国語），ソウル大学国語国文学科博士論文.

カン・ジンホ（강진호）（2015），「近代国語教科書と民間読本の誕生—初等小学（1906）を中心に—」（原題：韓国語），『現代文学理論研究』 第 6 号.

チャン・ヨンミ（장영미）（2016），「良材（材木）作りと自主独立そして国権回復—民間編纂『初等小学』（1906）を中心に—」（原題：韓国語），『韓国文芸批評研究』50 集.

野村淳一（2022）,「韓国統監府期の私立学校用教科書『初等小学』の特性」，『人文公共学研究論集』44 号.